2024 ISMRM & ISMRT Annual Meeting 参加報告

加藤 大祐

北海道大学病院 放射線診断科

2024年6月6日論文受領、最終受理2024年6月11日

2024年5月4日から9日にシンガポールで開催された「2024 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition」に参加させて頂いた。ISMRM（International Society for Magnetic Resonance in Medicine）は磁気共鳴医学に関する世界最大の学会で、基礎研究から臨床医学の最新技術と知見が集まる場である。

私は「Loss of AQP4 impairs solute clearance from the CSF space」という演題で発表した。近年注目されるglymphatic system仮説におけるAQP4水チャネルの機能解明をテーマとした研究で、AQP4が脳脊髄液中の溶質クリアランスに影響を及ぼす可能性があることを示した基礎実験の結果を報告した。Power pitch（壇上で短い口頭発表（2分）の後、1時間のデジタルポスターセッションで詳細なプレゼンや質疑応答を行う）形式で採択され、通常のポスターセッションより多くの聴衆が集まると聞いていたため英語が不得意な私は大変緊張していた。同セッションの他演題を見渡すと、私の演題は若干系統が異なっていたためあまり聴衆は多くないのではと思っていたが、予想に反し多くの参加者に立ち寄って頂き、終わってみればポスターセッションの間終始途切れることなくプレゼンや質疑応答を行うことになった。私にとって大変な試練ではあったが、指導医の亀田先生のご協力もあり何とか無事に終えることができた。

図1　会場入り口の大型ビジョンモニター

今回初めて参加し最も印象的であったことは参加者の議論にかける熱量である。明らかに英語が不得意とわかる私に対しても、諦めずに（?）何度も表現を変えながら質問や指摘を続けて議論を深めようとする姿勢を強く感じた。また、発表を終えた翌日に緊張感から解放され気持ち晴れやかに会場内を歩いていると「昨日の発表について質問をしたい」と唐突に声をかけられ、その場でPCを開きプレゼンを始めたこともあった（完全にスイッチを切っていた私がとんでもなく慌てたことは言うまでもない）。過去に行った学会発表でこれほど質疑応答や議論に時間をかけた経験はなく非常に刺激を受けた。ISMRMでは基礎研究者や医師以外の参加者が多いため、様々な視点からの質問や指摘があることも特徴的であり、学会発表を通して議論を深める重要性を再認識できた。これから研究発表の場を考えている方々には是非お勧めしたい学会である。

今回、宮坂アワードを受賞させて頂き、学会参加の貴重な機会を得ることができたことに深く感謝する。また、発表にあたりご指導頂いた工藤教授、亀田先生、基礎実験チームの皆様、そして会期中の臨床業務を引き受けて頂いた北海道大学病院放射線診断科の皆様に改めて感謝申し上げたい。

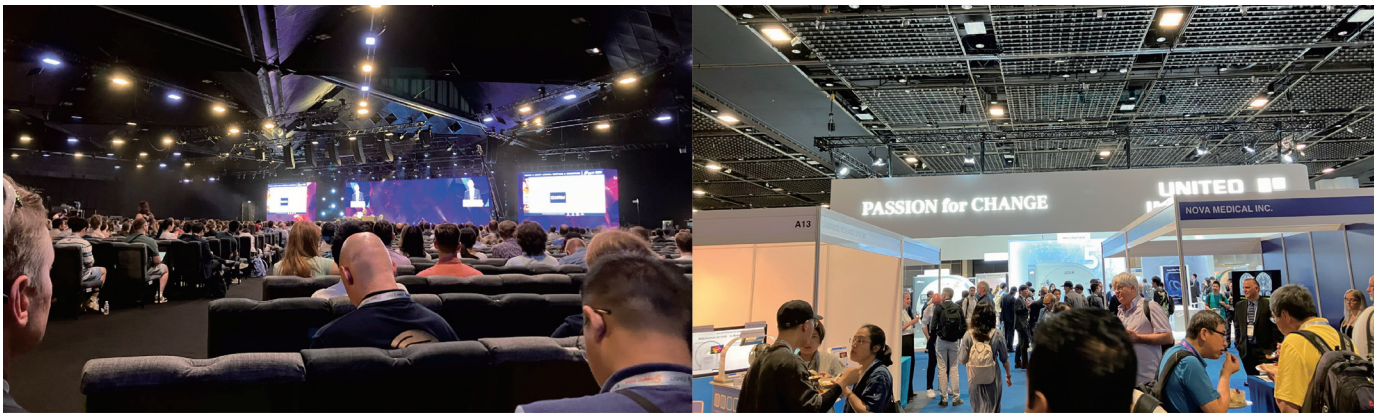

図２　Plenary session / 大規模な企業ブース

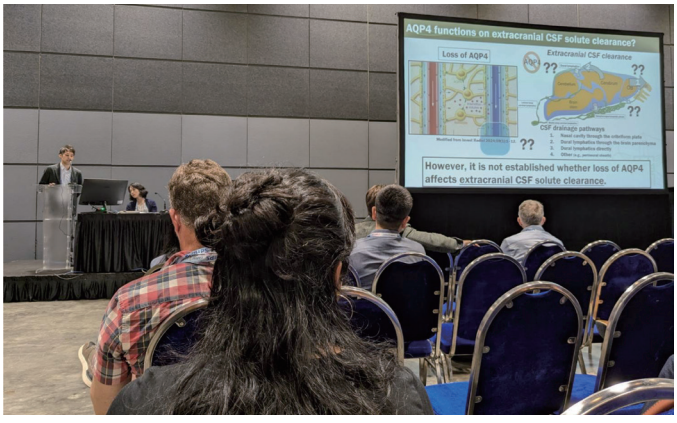

図３　筆者発表の様子（oral part）

図４　筆者発表の様子（poster part）

図５　筆者発表の様子（poster part）

図６　シンガポール屋台街（Maxwell Food Centre）/ 同行頂いた亀田先生と